



敵(?)も知れば怖くない

私は、鳥と緑の日野センター(WING)で実施している「地球にやさしい野鳥講座」の講師役をしています。毎月第一土曜日の午後を原則としており、5月7日や6月4日はWINGでお会いできるでしょう。

さて、2011年から国連「生物多様性の10年」がスタートしました。生物多様性の保全では、不快生物や危険生物との共存も避けられない課題ですが、相手を知らないことが不快や危険を増長させていることが少なくありません。例えば、カラスを見分けられますか？カラス科の鳥は日本でも12種が記録されていて、日野市でもハシブトガラスとハシボソガラスの2種が普通

にいます。2種とも大きめで黒く見えますが、種が違うので遺伝的に独立しています。簡単に言うなら、交わって子孫を残すことができず、チワワとセントバーナード以上に違います。イヌはオオカミの1種をルーツに300に及ぶ品種が作られました。遺伝的に独立していませんので、どれも同じ種と言えます。

種が違えば、習性に違いがあります(だからこそ、地球という星に数千万とも言われる生物種が共存しています)。姿がよく似たハシブトとハシボソでも環境の好み、採食方法や歩き方にも違いがあるし、声も違います。この身近な2種でさえ「いつ、どのようにペアができるのか?」「どんな雄がもてるのか?」

など、基本的なことがよくわかっていないのですが、声に濁りがないハシブトの雌が、しわがれ声のハシボソの雄を見初めるとは思えません(鳥類の多くは種が違って、雌が雄を選ぶのが一般的)。被害対策でも保護を考える場合でも、種ご



ハシボソガラスの子

子は巣立つ頃には親鳥と同じような大きさになっているが、虹彩が淡い。ハシボソは、子も親鳥に似てガーとしわがれ声でなく。なお、都市部では見られなくなったが、日野市では普通。

この環境要素や習性を知ることが重要ですが、2種に共通した繁殖習性を知っていれば、種がわからなくても怖いことはありません。例えば巣で卵を抱くのは雌だけで、その間の雌への給餌やなわばり防衛は雄の役割となります。4月頃、高く目立つところで1羽でいるのは雄が多いし、雄は雌への給餌のためによく喉を膨らませています。ちなみに私が観察したハシブトの例では、雄のなわばり防衛がしっかりしている、群れている若いカラスたちはなわばり内には入ってこれませんでした。ごく稀ですが、ハシブトでは巣作りの段階から人に対して神経質になるペアがいます。怖いと思ったら、巣には近づ

かないようにしたいのですが、これからの季節は子ガラスに気かずに接近して親鳥から攻撃を受ける人もいます。巣立ちの段階で子はすでに小さくないことを知っておきましょう。声(ハシブトでは子は甘い)や動作(子はトロイ)や口の中の色(子は赤い)が識別点です。また、ハシブトでは巣立ち後1週間以内の子は虹彩が淡く、その段階では「人が近づいても逃げない」「うまく飛行できない」子がいて、親鳥が神経質になりやすいと思われれます。

文/写真

(財)日本野鳥の会

主席研究員 安西 英明

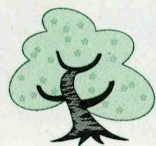
普通河川占用料納付のお知らせ

日頃から、日野市河川占用業務にご理解・ご協力をいただきありがとうございます。

毎年、「日野市普通河川等管理条例」に基づき水路等の普通河川を占用されている皆様に占用料請求書及び納付書を送付し、納付していただいています。

4月中旬に請求書及び納付書を発送する予定となっています。お手元に届きましたら、納付していただきたく願います。

なお、河川占用の継続申請の手続きの用紙を該当の方にお送りしています。まだ、手続きがお済みでない方は手続きをお願いいたします。



緑の募金にご協力を!



(財)日野市環境緑化協会と市の共催で、4月1日(金)から5月31日(火)までの期間に緑の募金を重点的に実施します。

この募金は、学校や公園等の身近な地域の緑化推進や森林の整備等に役立てられています。

おかげさまで、昨年度は180万円を超える募金実績をあげることができました。

緑豊かなまちづくりのため、緑の募金にご協力をお願いいたします。